

## 領域12・インフォーマルミーティング・議事録

日時：2023年3月23日19:00-20:00

場所：Zoom

司会：領域代表

書記：植松

### 1. 領域運営体制について

以下のように確認があった。(敬称略)

代表：北尾彰朗(東工大) 任期2023年4月-2024年3月

副代表：栗田玲(都立大学) 任期2023年4月-2024年3月

	ソフトマター	化学物理	生物物理
2022年4月			
-2023年3月	下川倫子(福工大)	植松祐輝(九工大)	姫岡優介(東京大)
2022年10月			
-2023年9月	佐野友彦(慶応大)	藤橋裕太(京都大)	小谷野由紀(神戸大)
2023年4月			
-2024年3月	貞包浩一郎(同志社大)	永井哲郎(福岡大)	佐藤 匠哉(理研)

### 2. 次期領域副代表について

以下の案が承認された。(敬称略)

山口毅(名古屋大学) 任期2023年4月-2024年3月

### 3. 次期領域運営委員案について

以下の案が承認された(敬称略)

任期 2023年10月-2024年9月

ソフトマター 小林史明(九州大)

化学物理 近藤徹(東工大)

生物物理 多羅間充輔(九州大)

#### 4. Web上の運営委員マニュアルとキーワードの現状の更新について

運営委員の植松祐輝氏より下記の提案がなされた。

- 2015年を最後に更新されていないWeb上の運営委員マニュアルが存在するが、連絡責任者という役職の新設やコロナ禍を経て情報が古くなり、運営委員の仕事の引継が難しくなっている。運営委員マニュアルについて、連絡責任者に関する記述、プログラム編集作業に関する記述を新設し、現在は運営委員の仕事としては存在していない学会論文賞推薦を削除し、シンポジウム招待講演の企画については「積極的な申請」と書くに留めるよう更新したい。
- アクティブマターは現在のWebの記載ではソフトマター分野が担当とあるが、2022年3月の学会から、ソフトマター分野の講演数が多いために生物物理分野が担当している。この点、キーワードの頁を更新したい。
- キーワードの変更案は現時点で運営委員からは出てはいないが、今後の議論のために近年のキーワード変更に関する経緯を公開したい。

この提案に以下の意見があった。

- Web頁の更新は運営委員の判断でやってよいのではないか。情報が古くならないようにこまめに更新すべきである。
  - 軽微なものや追記は運営委員と領域代表・副代表・次期副代表で承認があれば良いが、内容が大きく変わるものや重要事項の削除はインフォーマル・ミーティングで承認を得るのが良く、今回の場合は全面的な書き換えのため後者に当たると判断したと回答があった。
- シンポジウム・招待講演の企画について、運営委員はプログラム編成をする立場であるので一番企画しやすく、運営委員の任期中に領域でシンポジウム等が開催されることが、企画した運営委員当人にとっても領域にとっても有益なことである。したがって、運営委員の義務には当たらないが積極的に申請して欲しい。
  - 原案でも「シンポジウム・招待講演の積極的な申請」という文面はあったが、修正案として、本議事録へのリンクを貼るとともに「運営委員はプログラム編成をする立場であるので一番企画しやすく、運営委員の任期中に領域でシンポジウム等が開催されることが、企画

した運営委員当人にとっても領域にとっても有益なことである。」  
とい記述を加えることにした。

反対の意見はなく、原案に上述の修正を加えてインフォーマル・ミーティング後に Web 頁を更新することが承認された。

## 5. 領域委員会について

代表より以下の報告と意見聴取があった。

- 年次大会をハイブリッドにするかについて物理学会が実施したアンケートの集計結果の報告があった。
- オンラインにおけるポスターのあり方について意見聴取があった。
  - 今大会（2023 春）のような完全オンライン大会の場合は今の形式で問題ない。
  - 前前回（2022 春）では、直前で完全オンラインに決まったためか時間帯が夜 19 時—21 時であった。帰宅時間と重なり発表者や聴講者が居ないケースがあった。
  - 前回（2022 秋）のようなハイブリッド開催の場合、そもそもポスター発表のオンライン配信はなかった。
- 英語講演について意見聴取があった。
  - シンポジウムだけなら良いのではないか。
  - シンポジウムは招待講演で構成されているはずなので、主催者の裁量で決めれば良いのではないか。全部ルールが統一だと、企業の方の招待講演など大学関係者ではない方を招待しにくくなる可能性がある。
  - 全面的にルールで縛るとやりにくくなるのではないか。
- プログラム編成作業に関する情報交換について意見聴取があった。
  - 領域 12 は領域間調整がほぼ領域 11 に限られるので、現状、仕事が複雑にはなっていない。
  - エクセルファイルや Google Spread Sheet をメールでやりとりすることで現状は十分に対応できている。
  - 参加費を上げてまで新たなソフトウェアを導入する必要性はない。

## 6. AAPPS C.N. Yang 賞について

領域として推薦する候補者の選考に関して領域代表より以下の提案があり承認された。

- これまでは領域として毎年推薦することはなかったが、今後は毎年、領域として若手奨励賞受賞者の中から1人を推薦することにする。候補者は C.N. Yang 賞の推薦資格（学位取得後10年以内など）を満たし、若手奨励賞選考において最も評価が高かった者とする。また、AAPSS-JPS Award というものが創設され、この賞にも推薦することになる。

## 7. その他

- 都立大学で管理しているソフトマターメーリングリストに障害が発生している。一部、届いていない登録者がおり、完全復旧には、もう少し時間がかかることが報告された。